

山本ジャパン惜敗

パラグアイに一点及ばず



後半、ゴール前でシュートを狙う大久保(カフタジヨグリオ競技場(日本)―パラグアイ)

【テッサロニキ(ギリシヤ)一二日共同】アテネ五輪は一二日、ギリシヤ各地でサッカー男子一次リーグ四試合を行い、B組の日本は当地でパラグアイと対戦し3―4で敗れ、黒星発進となった。B組のもう一試合はガーナとイタリアが2―2で引き分け、勝ち点0の日本は最下位。一五日夜(日本時間一六日未明)の第二戦でイタリアに負けると、敗退が決まる。

守備のミスから失点

サッカー男子の日本は大事な初戦を落とした。前半

の守備のミスが失点に直結し、後手後手の展開に回らざるを得なかった。相キックオフから五分。相手の折り返しが流れると、那須が処理をもたついでヒメネスに先制点を許した。1―2の同三七分には再び那須がロングボールへの対応を誤った。ヒメネスの突破を許し、カルドソに3点目を決められた。

那須はアジア最終予選で五輪出場権獲得に貢献し、本番のキャプテンに指名された。そんな守備の中心の信じられないミス。山本監督は「試合会場で一度も練習をさせてもらえず、少しナーバスだった」と選手の心中を思いやったが、二度のミスは、世界を目標に戦うチームにはお粗末だった。

松井、田中達、平山を次々と投入して攻撃的な姿勢を強めた後半は多くのチャンスをつくり、引き分けの勝ち点1だけはものにしようと最後まで奮闘した。